

令和3(2021)年度における医療事故及びヒヤリ・ハット事例について(岡本台病院)

1 レベル別件数

区分	レベル	内 容	R3(2021)年度件数	R2(2020)年度件数	増 減
ヒヤリ・ハット事例	0	エラー(※1)や医薬品・医療機器の不具合が見られたが、患者には実施されなかった。	208	156	52
	1	患者への実害はなかった(何らかの影響を与えた可能性は否定できない。)	413	342	71
	2	処置や治療は行わなかった(患者観察の強化、バイタルサイン(※2)の軽度変化、安全確認のための検査などの必要性は生じた。)	92	97	▲ 5
	3a	簡単な処置や治療を要した(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など)。	49	52	▲ 3
	小 計 (ヒヤリ・ハット事例)(件) ①		762	647	115
	ヒヤリ・ハット事例の占める割合(%) (①/③×100)		99.6	99.1	0.5
医療事故	3b	濃厚な処置や治療を要した(バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など)。	3	6	▲ 3
	4a	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない。	0	0	0
	4b	永続的な障害や後遺症が残る、有意な機能障害や美容上の問題を伴う。	0	0	0
	5	死亡(原疾患の自然経過によるものを除く。)	0	0	0
	小 計 (医療事故)(件) ②		3	6	▲ 3
	医療事故の占める割合(%) (②/③×100)		0.4	0.9	▲ 0.5
合 計 (医療事故及びヒヤリ・ハット事例)(件) ③			765	653	112

※1 ある行為が、行為者自身が意図したものでない場合、規則に照らして望ましくない場合、第三者からみて望ましくない場合、客観的期待水準を満足しない場合などに、その行為を「エラー」という。

※2 血圧、脈拍、呼吸など

2 事象別件数

事 象	内 容	R3(2021)年度件数	R2(2020)年度件数	増 減
薬 剤	注射、点滴、内服薬など	188	151	37
輸 血	血液検査、輸血など	0	0	0
治療・処置	手術、麻酔、処置など	4	13	▲ 9
医療機器	医療機器など	0	0	0
ドレーン、チューブ類	チューブ、カテーテルなど	3	8	▲ 5
検 査	採血、撮影など	15	14	1
療養上の世話	転倒、転落、給食、栄養など	363	304	59
そ の 他		192	163	29
計(件)		765	653	112

((公財)日本医療機能評価機構による分類に準じる)

3 代表的事例及び対応策

No.	事 象	代 表 的 事 例	対 応 策
1	【レベル3a】 療養上の世話 (不穏行動)	<p>認知症患者の左手に切創があるのを発見した。 左手第4指と第5指の間に、長さ2cm、深さ1.5mmの切創があり、ステープラにて3針縫合処置施行した。 患者は、病棟廊下の窓に沿って、窓枠を触りながら歩いていた。窓の開口制限のためレールに固定してある金属製の留め具で受傷したと思われる。</p>	<p>金属製の留め具はガムテープで保護した。 棟内の手すりや窓枠を伝って徘徊していることが多いため、危険個所の確認や危険物除去に努めた。</p>
2	【レベル3a】 療養上の世話 (器物破損)	<p>保護室患者が食事摂取後、配膳トレイを足で踏んで3つに割っていた。 その際、右足にプラスチック片が当たり、3cm程度の擦過傷ができ、消毒後、絆創膏を貼布した。 食器類は全て保護室ドアの小窓から廊下へ投げ出されていた。 患者は施設入所に向けて調整中であり、情動不安定な状態であった。食事前にリビングで過ごした際も、掲示物を剥がしたり、ドアを蹴る行動があった。</p>	<p>配膳食器は Disposable 食器に変更した。 患者の行動特性についてカンファレンスで情報共有し、生活様式の枠組みを決めて対処することとした。</p>